

2. レポート課題に関する文献を調べる

この章では、文献収集の方法や調べ方についてまとめてあります。それぞれの節を読むだけでも理解できるよう記述してありますが、できる限り通読してもらえればと思います。

2.1 なぜ文献を調べるのか

レポート課題には、それぞれの授業科目によって様々な形式があります。例えば、指定された教材を要約するものや感想を書くもの、自分の意見を書いて論じるものなどがあります。いずれの形式であっても、自分の意見を書いて論じるものをはじめとして、知らない言葉があったり自分の意見を裏付けるための根拠がなかったりして、教科書だけでは十分な考察ができない場合があります。そのため関連した文献を調べ、より理解を深めた上で、レポート課題に取り組む必要があります。

最初に参照したいのは各科目で指定された教科書です。教科書によっては、初学者向けに用語の解説が詳細に掲載されている場合があります。その場合には、教科書に掲載された用語の解説部分をよく読むことで理解が進みます。まずは教科書に用語の解説が載っていないか確認しましょう。

2.2 文献収集の方法

レポート課題に関連する文献がいくつか読みたいけれど、探し方がわからないということがあると思います。授業の内容をより詳しく知りたいということもあるのではないかと思います。ここでは、文献収集の方法について解説します。

① シラバスの参考文献をみる

授業科目の概要が書かれたシラバスには、教科書の他に補助教材として参考文献が書かれていることがあります。テキスト科目の場合には、教科書では説明が不十分なところを補うことができる文献、その科目で学ぶ内容をより深く理解できる文献、その他レポート課題に関連する文献が掲載されていたりします。授業科目の担当教員が学生の皆さんの参考になればと、シラバスに参考文献を書いていることがほとんどです。シラバスに書かれた参考文献を収集して、レポート課題の参考にしましょう。

② 教科書に書いてある参考文献をみる

各科目で指定されている教科書にも、参考文献が掲載されていることがあります。参考文献

が掲載されていれば、教科書の執筆にあたりどのような文献を参考にしたのかが分かりますので、それをみて参考になりそうな文献を見つけます。掲載の仕方は教科書によって異なります。教科書の各章の末尾、または本全体の末尾に参考文献一覧という形で掲載されていることが多いです。場合によっては、掲載されている文献の新しい版が出ていることもありますので注意が必要です。

③ 自分で文献を探す

より個別のことについて詳しく知りたい場合や自分の意見を裏付けるような文献がほしい場合もあります。その時は、自分で文献を探します。探す方法としては、レポート課題や教科書、シラバスに書かれた内容からキーワードを考え、検索します。検索するデータベースや情報源については、科目によって異なりますが、ほとんどの科目で活用可能なものを以下に例示します。

【図書】

- ・近隣の図書館の蔵書検索システム：公立図書館などの蔵書を検索する。
お近くの図書館を検索してください。
- ・八洲学園大学の蔵書検索システム：大学の蔵書を検索、指定し郵送できる。
https://www.yashima.ac.jp/univ/about/information/library_use.php
- ・カーリル：地域を指定して複数の図書館の蔵書を横断検索できる。
<https://calil.jp/>
- ・CiNii Books：全国の大学図書館等の蔵書を横断検索できる。
<https://ci.nii.ac.jp/books/>

【雑誌記事】

- ・CiNii Articles：雑誌記事を検索でき、一部本文が読める。
<https://ci.nii.ac.jp/>
- ・Google Scholar：雑誌記事を検索でき、一部本文が読める。
<https://scholar.google.co.jp/>
- ・J-STAGE：雑誌記事を検索でき、一部本文が読める。
<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja>



【図書・雑誌記事・電子書籍など】

・国立国会図書館サーチ:全国の図書館を横断検索できる。

<http://iss.ndl.go.jp/>

・国立国会図書館オンライン:国立国会図書館の蔵書を検索し、複写依頼ができる(要登録)

<https://ndlonline.ndl.go.jp>

【統計・白書・特許等】

・日本の統計:総務省統計局が実施している統計調査がみられる。

<https://www.stat.go.jp/data/nihon/index1.html>

・e-Gov 電子政府の総合窓口>白書・年次報告書等:各省庁の白書がみられる。

http://www.e-gov.go.jp/publication/white_papers.html

・e-Stat 政府統計の総合窓口:各省庁の統計調査がみられる。

<https://www.e-stat.go.jp/>

【法令・判例等】

・日本法令索引:現行の法令や改正の審議会議事録などがみられる。

<http://hourei.ndl.go.jp/SearchSys/>

・e-Gov 電子政府の総合窓口>法令検索:現行の法令がみられる。

<http://elaws.e-gov.go.jp>

・裁判所>裁判例情報:判例がみられる。

http://www.courts.go.jp/app/hanrei_jp/search1

④ 科目の担当教員に聞く

自分で探してみてもどうしても課題に関連する文献が見つからない場合や、もっと詳しく知りたいという部分について関連する文献が見つからない場合は、科目の担当教員に助言を仰ぐとよいかもしれません。

2.3 知らない用語の調べ方

新しいことを学ぶ場合、日常生活で使っている、よく知っている用語であっても違う意味で書かれていたり、耳慣れないような用語が使われていたりして、すぐに理解することが難しいことがあります。本節では、知らない用語をインターネット、辞書、事典、百科事典で調べる方法について解説します。

① インターネットで調べる(語源・意味・事物・事象等)

教科書などに用語の解説が掲載されていない場合、インターネットの検索エンジンを使用して調べることもあると思いますが、それでは Wikipedia が検索結果の一番目に出てきてしまうのがほとんどではないでしょうか。Wikipedia は知りたい情報の概要を押さえる際に有効ですが、書かれている内容そのものが間違っている場合、出典が不明確である場合もあります。そのため、レポートに使用するのは必ずしも望ましいとはいえません。インターネットで調べる場合には、信頼性の高い情報源で調べるのが肝要です。なお、情報の信頼性の判断については、「2.5 文献収集の際の注意点:情報源の信頼性を判断するためのポイント」にて後述します。

● オンライン辞書・事典(有料)

例)「ジャパンナレッジ Lib」「ブリタニカ・オンライン・ジャパン」「ポプラディアネット」など

● オンライン新聞記事記事(有料)

例)「聞蔵Ⅱビジュアル」「ヨミダス歴史館」「毎索」「産経新聞データベース」など

※公立図書館によって提供されている場合があります。

② 辞書(語源・意味)や事典(事物・事象)で調べる

インターネットは手軽に調べ物に使用することができます。しかし、すべての情報がインターネット上にあるわけではありません。特に大学の授業で扱う用語には専門レベルのものが多くあり、また同じ用語でも学問分野によって異なる意味を持つことがあります。そういった場合には、インターネット上の情報を調べただけでは不十分です。紙媒体の辞典・事典等を参照することでより理解が進みます。以下の表は、知りたいことに応じた辞典・事典等の種類と代表例です。



表:知りたいことと辞典等の種類

知りたいこと	辞典・事典の種類	代表例
ある言葉・用語(日本語)の意味や語源、読み方について知りたい	日本語辞典(意味) 日本語源事典(語源) 日本語字典(発音等)	「日本国語大辞典」「広辞苑」 「大漢和辞典」「広漢和辞典」 「難訓辞典」
ある言葉・用語(外国語)の語源や意味について知りたい	英和辞典、 和英辞典、 英英辞典等	「ウィズダム英和辞典」 「ウィズダム和英辞典」
ある人物について知りたい	人名事典	「人物レファレンス事典」 「外国人物レファレンス事典」 「岩波西洋人名辞典」「日本人名大事典」
ある地域について知りたい	地名事典、地図、 地図帳、地域年鑑	「世界地名大事典」「角川日本地名大辞典」 「日本大地図帳」「世界年鑑」
ある特定の分野について知りたい	専門事典、 ハンドブック	「岩波哲学辞典」「理科年表」 各種「六法全書」(最新刊)
ある流行語について語源や意味を知りたい	時事用語事典	「現代用語の基礎知識」

オリジナルな情報が載っている資料を一次資料といいます。一次資料に対し、オリジナルな情報を編集・加工した資料を二次資料といいます。もう少し分かりやすく言うと、二次資料は「自分の欲しいオリジナルな情報がどのような資料に載っているのかを探すための資料」と言い換えられます。

つまり、世の中には、オリジナルな情報(=一次資料)だけでなく、自分の欲しい情報に関連した参考文献が豊富に掲載されている資料(=二次資料)もあるということです。自分の欲しい情報が載っている資料(二次資料)から図書や雑誌記事(一次資料)を探すなどしてみましょう。



2.4 文献を調べるための基本：文献の選び方

情報収集にあたっての基本としては、以下の3点が挙げられます。(参考:山田剛史, 林創『大学生のためのリサーチリテラシー入門』ミネルヴァ書房, 2011.)

- (1) 用語を調べる(「2.3 知らない用語の調べ方」を参照して下さい)
- (2) 複数の情報源にあたる
- (3) メモをとる

この中で特に重要なのは、(2)複数の情報源にあたるです。信頼性の高い情報源であっても、出版された時期が古い場合や誤植などによって、内容が間違っている可能性があります。そのため、一つの情報源ではなく、複数の情報源を参照することによって自分の欲しい情報の正確性を高める必要があります。

次に、関連する文献を調べるための基本として、選び方について解説します。

① 紙の情報源の選び方

例えば、『図書館活用術：検索の基本は図書館に』では、図書館で情報源として参考図書等を選ぶ際の注意事項として、以下の5点が挙げられています。百科事典は入門レベルで、専門事典は専門レベルの記述が掲載されていますので、自分の欲しい情報と情報源があっているかも検討しましょう。(参考：藤田節子『図書館活用術：検索の基本は図書館に』新訂4版，日外アソシエーツ，2020.)

- a. 目的にあったレベルや内容の資料を選ぶ
- b. 新しい出版年の資料を選ぶ
- c. 索引が使いやすい資料を選ぶ
- d. 参考文献のついている資料を選ぶ
- e. 良く知っていることからひいてみる

自分がどのレベルの情報が欲しいのかを把握した上で、情報源を選択します。次に、出版年やデータの更新日はなるべく新しいものを選びます。レポート課題で出される設題は、ほとんどが最新の事情について論じるものです。古い情報源で書かれていたことが間違っていたり、訂正されていたりすることもあります。ただし、レポート課題によっては、指定の年代に対する設題が出されることや、指定の年代をみる必要がありますので注意しなければなりません。

② インターネット上の情報源の選び方

紙だけでなく、インターネット上にある情報源も適切に使用すれば有用です。しかし、どのインターネット上の情報源が有用なのか、またはレポートに引用できるほど正確な情報なのか検証して判断する必要があります。例えば、ドメインです。ドメインとは簡単にいうと、インターネット上

の住所を示すものです。

八洲学園大学ウェブサイト为例に説明します。本学のウェブサイトのアドレスは以下の通りです。

<https://www.yashima.ac.jp/univ/>

ウェブサイトのアドレスを表す文字列のうち、ac は当該団体の属性（この場合は「大学」）、jp は国（この場合は「日本」）を表します。以下の表に代表的なドメインをまとめました。

表:ウェブサイトアドレスの属性や国を表す文字列

属性		国名等	
ac	大学系教育機関	jp	日本
co	一般企業	us	アメリカ合衆国
ed	教育機関	com	営利団体
or	非営利団体	org	非営利団体
go	政府機関	net	ネットワーク関連機関
lg	地方自治体	gov	政府機関
ne	ネットワーク関連機関		

この文字列のうち、例えば ac（大学系教育機関）、ed（教育機関）、go（政府機関）、lg（地方自治体）であれば公的な機関にあたりますので、信頼性の高い情報発信者といえます。したがって、信頼性の高い情報発信者がウェブサイト上に掲載している統計情報などは信頼性が高いとみなせます。

他方、大半の個人ブログや Wikipedia は発信者が匿名であるため、信頼性が低いといえます。レポートで使用するための情報源としてふさわしいかどうか、十分に吟味する必要があるでしょう。内容の評価については、「2.5 文献収集の際の注意点:情報源の信頼性を判断するためのポイント」をご覧ください。

2.5 文献収集の際の注意点：情報源の信頼性を判断するためのポイント

レポート課題で引用する文献は、できるかぎり信頼性が高く学術的な内容であるものを使うことが望ましいといえます。また、自分の目的にあっていのか、引用したい部分と自分のレポートの論点があっているかなどを確認する必要があります。

都立高校司書の研修団体である東京都立高等学校学校司書会では、高校生がインターネット上の情報源の信頼性を判断するためのポイントを「か・ち・も・な・い」という標語でまとめました。大学生の皆さんにも参考になると思いますので、こちらで紹介합니다。「か・ち・も・な・い」サイトに引っかけられないよう、十分に気をつけましょう。

(参考:東京都立高等学校学校司書会ラーニングスキルガイドプロジェクトチーム編『探究に役立つ! 学校司書と学ぶレポート・論文作成ガイド』ペリかん社, 2019)

か 書いた人は誰か?

(執筆者が不明な際は他のサイトも調べましょう)

ち 違う情報と比べたか?

(複数のサイトを見比べるようにしましょう)

も もとネタは何か?

(参考文献や引用がまったくないサイトは要注意)

な 何の目的で書かれたのか?

(都合の良いデータだけで構成していたりしませんか?)

い いつの情報か?

(古い情報を扱っていないか、更新日を確認しましょう)



加えて、媒体別に情報源の信頼性を確かめるポイントをまとめてみました。合わせて参考にしてください。

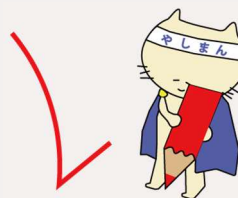
(参考①:井出翁, 藤田節子『レポート作成法』日外アソシエーツ, 2003.)

(参考②:ジェームス・E・ヘリング著, 須永和之訳『学校と図書館で学ぶインターネット活用法』日本図書館協会, 2016.)

媒体別：情報源の信頼性を確かめる POINT

① 図書

- 著者の信頼性があるか
- 出版年は新しいか
- 版次は重ねられているか
- 目次に知りたい論点があるか
- 巻末索引はあるか
- 序文や概説に自分の知りたい論点が主としてあるか
- 注・引用文献リストや参考文献リストが示されているか
- 同一テーマを扱っている他の図書と比較して自分の知りたい論点はあるか
- 付録に用語集や統計があるか



② 雑誌論文

- 商業雑誌に掲載された記事ではなく、学術雑誌に掲載された雑誌論文か
- オリジナルの研究・調査論文か
- 解説記事もしくはレビュー論文、紹介記事か
- 翻訳記事か

③ ウェブサイト、ウェブ情報

- 誰が作成し、何の目的で、いつ作成され、どこから情報発信されているのか
- 最近更新されたのはいつか
- 最新情報なのか
- 求める情報が載っているか
- どのくらい正確なのか
- 不当な偏見に基づいていないか
- 誤った偏見に導こうとしていないか

以上の注意点を考慮した上で、自分のほしい情報についてレポートに引用すべきかどうかについて判断しましょう。